低コスト林業についての現地検討会を行いました
（現地検討会での署長挨拶の訂正について）

令和２年９月４日
広島北部森林管理署

広島北部森林管理署では、民有林関係者と連携を図りながら、これまで林産物の安定的供給、民国が連携した効率的な路網の整備や低コスト林業への取組を展開してきました。特に低コスト林業については、下刈省略や路網整備などをテーマとして重点的に取り組んできました。しかし、低コスト林業の推進とあわせて重要な課題が林業従事者の確保、担い手育成です。

近年の林業従事者の動向では、全国で昭和 60 年の 126,000 人から、平成 27 年には 45,000 人と減少しています。このような中にあって、伐木・造材分野では直近の 5 年間では増加に転じているものの、下刈、植付けなどの育林分野では、長期的に減少傾向にあります。経費のコスト減も重要ですが、今後主伐・再造林が多くを占めることを考えると、育林分野において林業従事者を確保していくとともに、下刈作業など過酷な労働環境の改善も低コスト林業を進めていく上では、避けて通れない課題でもあります。

このため、広島北部森林管理署では、9 月 2 日県、市町の林務担当者、森林組合、林業事業体、森林管理署などの林務担当者約 80 名が参加した先進造林用機械による下刈作業の労働軽減についての現地検討会を行いました。

現地検討会の様子

メモをとる参加者

林業機械{山もっとジョージ}に試乗する参加者

検討会では、参加者から「刈払い機による作業に比べ、先進造林用機械による作業では、どの程度労働力が軽減されるのか。」、「メンテナンスの経費は」などの質問が出されました。

広島北部森林管理署では、地域の森林・林業の再生に向けた様々な課題の解決に向けた取組を今後も展開していきます。

■R2.9.2 の現地検討会での署長挨拶の訂正について

署長挨拶の中で「1985 年以降、伐採・造材分野での林業従事者は増加傾向にある一方、育林分野においては、減少傾向」と発言しましたが、実際は「1985 年以降、伐採・造材分野での林業従事者は減少しているものの、直近の 5 ヶ年間では増加に転じた一方、育林分野においては、減少傾向。」と発言すべきでした。紙面をもって訂正し、お詫びいたします。